

爆乳JKめぐたんが

彼氏と
エロ配信
するだけの
本♡



Caution!

★ **R18** ★
ADULT ONLY

呪術廻戦 unofficial fanbook
五条悟×爆乳女体化伏黒恵
✦不特定多数モブ攻め・怒仁&痲痺攻め

爆乳JKめぐたんが

彼氏と
エロ配信
するだけの本♡

Caution!

★ **R18** ★
ADULT ONLY

呪術廻戦 unoficial fanbook

五条悟×爆乳女体化伏黒恵

†不特定多数モブ攻め・怒仁&瘡癩攻め

爆乳JKめぐたんが
彼氏とエロ配信するだけの本

みたいわ南国



この本は、個人製作、非公式のファンブックです。
原作者様・出版社様とは一切関係ありません。

二次創作をご存じない一般の方や、

関係者様の目に触れぬようご配慮をお願いします。

また、十八歳未満の方の閲覧は固くお断り致します。

爆乳JK
めぐたんが彼氏とエロ配信するだけの本

「——恵？ お前、なに、それ……」
「え？」

五条悟が目を見開く。
傍らに居るのは最近縁あって保護することになった少年、伏黒恵だ。

やむを得ないなんやかんやで関わりを持つことになってしまったが、血筋が良く才能も感じられるこの子供を育てていくことが己の望む世界への大きな一歩となるだろう、と悟は半ば確信していた。

まずは知識。それから体験・経験。欲をいうなら呪いを祓うことへの強い動機を持たせられたら満点だ。

そういった意図で、悟はちよくちよく幼い恵を任務に連れていき、自身が呪霊を祓う様子を間近で見学させていた。

彼らの生活費を支援している、恵の父親の知り合いの人——それが、今の悟の立ち位置だ。姉の津美紀に対しても恵から同じ趣旨の説明をさせて、これだと思う事案があれば、泊りの任務にも同行させている。

そうして除霊後に宿泊したホテルにて、最強の名を欲しいままにする五条悟すらも驚愕させる事件が起きていた。
恵が風呂に入っているのを気にせずに、悟が脱衣所へ歯を磨

きに行ったときのことである。

たまたまタイミングがかぶってしまい、歯磨きの最中だった悟の目の前に、風呂上がりで腰にタオルを巻いただけの恵が現れた。

別に男同士なのだからそれだけならどうという話でもないのだが、そうして何気なく視界に入れた恵の上半身の、ごく一部分が。もう少し具体的に述べると、胸のあたりが。

「——、お前つ、なんかおっぱいおつきくなってる……ッ?!」
「へ………?」

やせつぼちの少年のバストが、うっすらと膨らみだしていたのである。

結論からいえば、伏黒恵は特殊体質を持っていた。

人間から流れ出る負の感情、そのうち“劣情”だけを引き寄せ溜め込む“淫媒”体質。取り込んだ淫欲は本人の身体を蝕み、元が異性だろうが無関係に、“雌化”を進めてしまうとのこと

だった。あちこち探してやっと思つた古い文献の文字を眺めつつ、悟は眉間にしわを寄せる。

勝手に性別が変わってしまったなどんでもないし、放置すれば最悪、呪霊化した煩惱に押し負けた恵が淫奔の権化となり、人の世を煽って混乱に陥れてしまう可能性すらあるらしい。

すぐに高専に相談していい状況だったのだが、当の恵がそれをひどく嫌がった。普段は非常に理解の早い聡明な子供なのに、このことについては「恥ずかしい」「誰にも言いたくない」「最強なんだから悟さんがなんとかして」と繰り返すばかりだ。

「恵イ……。そりゃ僕は最強だけど、最強つてさ、一番強いって意味で、絶対なんでもできるって意味じゃないんだよ」

「いやだ」

「嫌じゃないよ、このままじゃ恵がすごく困ることになるんだよ。なあ頼むよ、専門の人を呼んできたらきつとどうにかするからさあ」

「悟さんが……。っ、やっってください……！」

「ああああああ……。ちよつとおい、泣くなつて！ 分かった、分かったからさ！」

ある意味で、悟が真に完全敗北したのはこの瞬間だったのかもしれない。

どれだけ呪力の扱いに長けていようが、悟とてついこの間高専を卒業したばかりのまだまだ若い青年なのだ。

子供らしくない子供が見せる年相応の涙の粒に、慌てふためき謝罪するしかできないのだった。

かくして、平時はごく普通の少年だが、封印を解くと女体化・雌化する“伏黒恵が爆誕した。

最強なんだろうと頼られてしまった手前五条悟が独力で奮闘し、とある呪具を用いて、恵が引き寄せる劣情を封じること成功したのである。

とはいえ専門分野でもないので完璧に解決できたわけでもなく、定期的に封印を解き、溜まった劣情の発散はせねばならない。

劣情の発散とはこれすなわち性的な行為になるわけで、やむなしと悟は恵に女体での自慰を教え、狙い通り発散がうまくいっているかを離れた場所から見守った。これ以上ひとりでは無理だと泣きつかれてからは、これは恵のためなんだと己に言い聞かせ、自宅へ招いて愛撫までしてやる事態に至る。

座位で背後からすっぽり抱き込まれ、手であちらこちらと性感帯に触れられるのが特に恵のお気に入りだった。

やだ」などと抜かすのだ。

今も、背中から抱き込まれていたのを抜けて向き合い、上目遣いでこちらを覗き込んでくるのだから本当に勘弁してもらいたい。

いくら本物のこいつは男なんだぞと自分に言い聞かせたところで、実際目の前にいるのはまだまだ発達する気配を隠さない膨らみをぼよんぼよんと揺らしている全裸の少女である。こんな、さすがの悟だって動揺するし素の自分称だってうっかり出る。

「もういいでしょ!? じゃ僕あつちの部屋帰るからさ!」

「一緒に寝てもらえませんか……?」

「寝ませんッ! いつまでも子供みたいなこと言うんじゃないッ!」

「悟さん、俺世間的には間違いないく子供です」

「も~~~~~~~~……ッ!」

誰か助けて、なんて悟が呟くのは強力な呪霊に対峙したときなんかではない。ほっぺたを赤くして、乳首まで曝け出して、欲情した恵がぐいぐい迫ってくるそのときだ。

いかな最強とて結局子供のおねだりには弱いのであって、このち「手でしてあげるだけですから」とか「こすりこするだけですから」とか「先っぽだけ入れてください」とか「もうすぐ高校生なんで外に出したらいいことにしましょう」などと

そそのかされ、丸め込まれて、中学卒業と同時に悟は恵とセックスをした。

さすがに責任を感じて交際を申し込むと快諾され、晴れて高校生となつてからは、女体でだけでなく男の身体の恵とも時間を見つけてはこっそり睦み合う日々だ。

そこまでで、うまくいけばよかったのだが。

「恵イ~~~~~~~~着替え、終わったあ? もう見ていい?」

「ちよつと待つてください、今靴下はいてます。よし……。じゃあいいですよ、五条せん……。じゃなかった、悟さん」

悟はいつもの格好とは違うカジュアルな私服で、キングサイズのベッドに腰かけていた。組んだ足の腿のあたりに肘をつき、表情は、少しぶすくれている。

許可が出たので、悟はそのままのポーズでちらりと視線だけを恵の方に向けた。

整った顔が分かりづらくなるくらい大きなサングラス越し

にみやったそこには、だぼついたニットの上着を羽織り、短いプリーツスカートとルーズソックスをはいた、やたら胸のデカい女子高生——もとい、女体の恵がいた。

「ルーズソックスってなにそれ。昔はやったやつじゃない？」
「悟さんが喜ぶかと思つて」

「あのね。僕全然その時代じゃないよ、もつと若いよ。お前氣遣いあるんだかないんだかどつちなの……」

「なんか、エッチに見えるつて話だったから。こういう格好の方が、やらしい感じがするつてネットに書いてあつたんです。だから……、その、どうですか。エロい気分になりますか……？」

「もー反則でしょそういう言い方！ もともとギリギリだつてのに！」

「あはは……♡」

「あははじゃないッ！」

いわゆる萌え袖とかいうやつで、だぼだぼしたニットの袖からはちらりとしか手が見えない。その細い指をそつと口元に持つていくわずかな動作だけで、恵のたわわな乳がふるんと弾んだ。小学生の頃から膨らみ始めた恵のバストは成長に成長を重ね、高校生となつた今では、小型のスイカかなにかが二つ並んでくついているかのような、どうにも非現実的な実りぶりになつてしまつていた。

「悟さ、ん……♡」

「はいはい、恵はエロ可愛いよ。こつち来なさい」

そのうえ、頬を染めて、煽情的にとろんと瞳を蕩かしながら悟の方を見つめてくるのだから恐ろしい。

恵は体型もさることながら、封印を解いたときの発情つぶりもエスカレートしていったのだった。

こうして歩いて寄つてきている間にも、彼女の下着は愛液でぐじよぐじよになつているはずだ。

ぴつたりと悟に寄り添いベッドに腰かけた恵を、改めて悟は観察する。

髪型こそ男の子っぽいものの、もともと綺麗な顔立ちをしているので女性になつてもまったく違和感がない。

まして、このスタイルの良さだ。半端なグラビアアイドルなら裸足で逃げ出すような張りのある爆乳は、あんまり大きいものだから見下ろす角度だと乳から下がなにも見えやしない。

恋人同士である以上あばたもえくぼ状態なのを差し引いても、間違いなく恵は極上品だった。

——こんなの、独り占めしたいに決まつてるだろ。

そんな思いが、無意識に悟の口を尖らせる。

視線を正面に向ければ、巨大なディスプレイとその下に設置されているビデオカメラと目が合った。

カメラはほかにも左右に一台ずつ、それぞれベッドに向けて置かれている。

ここはブレイルーム。悟が金にものを言わせ、恵のために用意したムラムラ気分の発散部屋だ。

これから恵は、彼氏である悟監修のもと、痴態をネット配信する予定なのである。

「み、なさん、こんにちはあ……♡ 爆乳JK♡ めぐめぐですうう……♡」

背景はベッド。生配信中のビデオカメラに向かって、にへら……♡と微笑む、ばかでかい乳の女子高生。あぁなんて淫猥な光景なんだろう、と、悟は気が遠くなるような感覚がした。

別に悟だつて、好き好んでこんなことをしているわけではない。ただ、一対一のセックスだと悟の方ががつついて恵を失神させてしまい、劣情の発散が効率よく進まなかったのだ。

呪霊との戦いで忙しい日々の合間を縫って、はとでも必要な量に追いつかない、という判断を経て、もはや苦渋の決断だった。

恵を失神させずに、長時間いやらしい気分させ、溜まりに溜まった劣情を発散させるのに最適な手段とは——、つまるところそれは、エロ配信という行為に行きついた。

なにせ、こう言つてはなんだが、恵はドがつくレベルの被虐嗜好を持っていた。

焦らしブレイや言葉責め、淫語を言わせるくらいまでは悟も十分愉しませてもらっていたが、なんと露出癖まであるときた。彼氏としては物凄く複雑な心境になりつつも、やはりここは恵のためだから、と、悟は黙って恵を見守る。

『めぐちゃんまたおっぱいおっきくなったんじゃない？』
「ん、うん……♡」

大きなディスプレイには視聴者からのテキストメッセージが右から左に流れるように設定がされているので、会話らしきものも可能だ。

こういった配信ももう数回目になるので、恵も慣れた風で対応している。

「はー……、でっけ。ほら、乳揉んだげるよ」

「んああ、ん……っ♡」

なんとなく癪で、やりとりに悟が割って入る。

後ろから手を回してカーディガンの前を、はだけ、シャツの上から卑猥な動きで揉みしだいた。

『めぐめぐ、おっぱい大きいのにいつもノーブラだねえ♡』

「う、ん……♡ だって、いっぱいもみもみしてもらわなくっちゃいけないか、ら……♡」

『エッチだな〜♡』

「……うん、うん……♡」

「……」

悟が配信に利用しているのはいわゆるアングラの、超富裕層向け匿名サイトなので、セキュリティの面ではほぼ心配がない。視聴者側にも厳しい審査があり、秘密を共有できる人間だけがこの場に集まる仕組みになっている。

そもそも恵は男なので、たとえこの配信動画がどこかに出てしまったとしても、女体である以上特定されるはずがないのだ。悟は一応私服で、普段使わないようなサングラスをして念のため顔バレを防いでいる。対策は万全とあったところだった。

ただしそういったサイトを利用しては以上、なんとなく視聴者の年齢層が限定されてしまうのはなかなか残念な感じがしていた。なんで金持ちのオッサンに自慢の彼女のエロ動画を見せてんだろうなあ、俺。キモいなあ。日頃の行いが悪かったのかと自身を振り返ってみれば確かにろくなことをしていなかった。悟はそのまま無言で恵の乳房の根元をぎゅうっと掴む。普通の女相手にそんなことをすれば痛いと言句のひとつでも言われるところだったが、恵は「ひあん♡」と気持ちよさそうに鳴くだけだった。

『ああ、でも興奮しちゃうな♡ めぐちゃんみたいなおっぱい大きな子がノーブラでその辺歩いてたらどうしよう……♡ ゆっさゆっさして大変だったんじゃない、周りからめちやくちや見られたでしょう♡ ねえ、めぐちゃん♡ じろじる見られて気持ち良かった？♡』

「あは……♡ そう、ですなえ……♡」

実際には、封印を解いた状態で恵を外に出したことはない。けれど部外者にそう解説してやる義理もないだろう。

コメントに刺激されて、悟も少し想像を働かせてみる。

女体化した恵を今日の制服姿で、ブラジャーなしで歩かせたら。それはもう、一步ごとボールが弾むみたいにぼいん♡ぼいん♡とバストが揺れるに違いない。

周囲の羨望のまなざしを浴びつつ悟は恵の腰を抱き、コンビ二へと向かうのだ。

『これ買お』

店内に入るなりそう言うって横着に顎をしゃくり、恵に最下段の商品をとるように指示する。激うす、と書かれたそれは、紛れもなく避妊具だ。一番高価で下種いパッケージのものを持たせて、ふたり一緒にレジへと並ぶ。

『……袋はいりますか』

『袋は……、いいえ♡ すぐ使うので、いりません……♡』

今すぐ、これ使う、予定、なので……っ♡』

店員に返事をしながら、恵は制服のシャツのボタンを上からひとつずつ外していく。

ブラジャーをつけていない、まるやかな柔肌が現れていく過程に男性店員は釘付けだ。女体化して少し背が縮んだ恵の胸へ、動揺しつつもしっかりとそこを凝視する店員の視線が降り注ぐ。

『今から……♡ するんです♡ 隣の彼氏と♡ ゴム、使うこと……♡♡ 気持ちいいこと♡ セックスっ♡ するんです♡♡ つていうのはウソ♡ ほんととね、ゴムなしでするんです♡……♡♡ 中出し大好きな彼氏だから、生でしかないの♡ いっつも生ハメ♡ これね、店員さんからかってるだけなんですっ♡♡ ごめんなさい♡ お詫びに、見ます♡……♡♡ このの、先っちょ♡♡ ね♡♡ めぐの、勃起乳首……っ♡♡ 彼氏に可愛がられてすっかり育ちちゃった、薄ピンクのおつきめ乳首っ♡♡ ねえ、見る♡♡ 見たいですか……♡♡ お詫びなんだから、がっつり見ちゃっていいんですよ♡♡ ちよっただけ、つんっ♡♡ つついてもいいんですよ……!!♡♡ ねえ、見たいって言って♡♡ めぐの乳首が見たいって言ってえ♡♡ 言ってくれたら、めぐのどかパイの先っちょ♡♡ 店員さんにどうぞしちゃうよっ♡♡ ねえねえ、ねえ……っ!!♡♡』

すっかり発情モードに入った恵は瞳にハートマークを輝かせながら、自分の両手で豊満な乳房を持ち上げる。下から手を入れて、たゆん♡たゆん♡たゆん♡たゆん♡と何度も揺すってみせれば、店員だけでなく近くにいた客の男たちまでわざわざ振り返っていた。みなちらちら目を泳がせて互いに距離をとりつつ、それでもじりじりと恵の方へ近づいてくる。

『え、と、えっと——♡』

『ねえ、見たいい？♡ めぐの、ぼよんぼよんのおっぱいの、先っちょお……っ♡♡ 乳首♡♡ ちーくび……っ♡♡ 出すう？♡♡ 出しちゃううっ？♡♡ ここでぼろん♡♡ つて乳首出したら、防犯カメラに映っちゃうねえ……っ♡♡ 店員特権だから仕事終わったら繰り返し見てもいいよお？♡♡ めぐの乳首、あなたが指でつんつんするとこっ♡♡ 先っちょ摘まんでいじわるしてえ、めぐのおっぱいがびよ〜くん♡♡ つてとんがるまで引っ張って♡♡ それからああん♡♡ あはあん♡♡ つてめぐが喘いでみせるとこお♡♡ 何回見ても、いいんだよお♡♡ おお♡♡ おお♡♡ おお……っ!!♡♡』

別に悟のような観察眼がなくても、このあと店内がどうなるかなんて男なら分かるだろう。間違いない、どマゾの恵が大喜びになる展開に違いない。

(あークソっ、変な想像した……っ!! 恵は俺のだ、俺の……)

っ！)

「ふああああんっ！♡ はああああ……っ♡」

恵にしてみればかなり理不尽な怒りも込め、悟は恵の乳をぎゅむぎゅむと握る。そうしてシャツ越しに、っん♡と尖りだした乳首をわざとらしく摘まんでみせた。

「あっ♡ ああああああー……っ！♡ 乳首っ♡

♡ 乳首いいいいいい……っ♡」

「すんげえビンビン……、やーらし」

「おっ♡ ほおっ♡ おっおっおっおっおっおっ……っ♡

♡ ほおっ、おっ♡」

シャツごと大きめの乳首を摘まんでやると、薄い生地からうつすらピンク色が透けて見えてなおいやらしい。ポリウムがあるだけに、限界まで引っ張ってみせれば前方に向かい、ロケツトのように流線型に歪んだ乳房が突き出していた。

「股開いて」

「え……っ？♡」

「股、開きなよ。お客さんからよく見えるようにさ」

「~~~~~っ、~~~~~っ……っ！♡」

ふるる、と恵の身体が震えるのが伝わる。悟のオーダーに怯えているのではない。興奮しているのだ。

その証拠に、次の瞬間には、恵は荒く息を乱しがばあ……♡と大きく足をガニ股に開いていた。

「んあああああああ恥ずかしいっ♡ 恥ずかし……っ♡

♡ 彼氏におっぱいめちやくちや引っ張られて足つ、思いつきりオープンしちゃってるのおおっおっ……っ！♡ 見られてるっ♡ ガニ股乳首いじり見せつけてるめぐのっ、えっちなとこお！♡ あっあっあっ腰が揺れちゃう♡ 気持ち良くて腰がへこへこしてるっ♡ みつともないっ♡ みつともないよお……っ！♡」

「あはは……っ♡」

恵の乱れっぷりに、悟もだんだん昂ってきていた。

よその男にここまで痴態を見せてしまうなんて、やつぱり腹立たしいと思う気持ちはさほど変わらないのだけれど。

「ほおー……ら、デカばいで吊ってあげよう♡ めぐめぐはバカみたいにおっぱいがでかいから、こおんな無様な真似ができるねえ？♡ 釣鐘みたいなデカばいでぶらさげられちゃったホルスタインちゃん♡ 罵声浴びんのも気持ちいいんだろ♡ まったく、エロガキが……♡ ほおら、もっと思て欲しいとこできたんじゃないか？♡ 好きにしなよ、さあ！♡ やりたいようにやってみなこの淫乱JKめっ！♡」

「あふあ……♡ ああっ、あああああっ、バレてるうううう……っ！♡ 発情しためぐがなにしたくなっちやつてるかっ♡ 彼ピにぜえんぶ見抜かれちゃってるよおっおっ……っ！♡ それもこれもっ恥ずかしくって……っ！♡ んああ

「ははっ、大好評だぞめぐ……♡ お前の無様具合におじさんたちみいんな大興奮だつてさ♡ 良かったな♡ ほーら、もうイクだろっ？♡ 我慢できないよなあ、こおんな醜態曝させてもらつてさあ……！♡ おらいけっ！♡ カメラの前でガニ股パンツ見せ絶頂しろっ！♡ デカ乳エロガキはみんなにアクメ見てもらうんだよっ、ほらっ、おらああああああああああ……っ！♡」

「んおええええええええええ……っ！♡」

悟の手つきがいよいよ乱暴になって、恵の乳房はばいん！♡ ぽいん！♡ と互いによつつけられている。罵声のシャワーを浴びれば浴びるほど恵の下半身は突き出され、大きな染みのある下着を男たちに見せつけた。

そんな状況を本人もよく分かっているからこそ、高揚によって余計に激しく腰が揺れる。がく♡がく♡へこ♡へこ♡と、淫欲の高まりを悟に観衆に、力いっぱいアピールする。

「んおああああああおっばいっ、めちやくちやにされ……っ！♡ 気持ちいいですっ！♡ きぼちいい……っ！

♡ おツユ出てるからお股見てええっ！♡ めぐのおっぴろげばっかな恥知らずお股ガン見してくらさいっ！♡ お股どうぞおおおおっ！♡ 淫乱JKの腰へコおばんちゅじーって見てえっ！♡ じっとり濡れ濡れのぐぢよぐぢよおパンティっ♡ 鑑賞してくらさいっ！♡ めぐのパンツ見

てっ！♡ めぐパンの染みっ、めぐのえっちなお汁が作ったドすけべな染みの大きき見ていっばい笑つてえっ！♡ パンツ♡ パンツ！♡ おばんちゅ♡ めぐばんちゅうううううう……っ！♡ ピンクで可愛い染み染みのおばんちゅ見えて見て見ていいいいいい……っ！♡ ええええええええええええええええ……っ！♡ んんんっ！♡ んんんんんんんん……っ！♡」

ぴん！♡と腰を突き上げ、裏返るまでめくり上げたスカートの端を握りしめて恵は果てた。

ぐちよ濡れの下着も、すべらかな内もも多くの人間の目に曝して、やがて恵はへなへな崩れ、床にぺたりとへたりこむ。

「……イった？」

「……う、ん……♡」

「じゃパンツ見せて」

「ふえ……♡」

「恵のどろどろパンツ、視聴者のみなさんに披露してきなよ」
「……………ひう…………♡」

上から声をかけると、恵はイったばかりだというのに、淫靡に瞳を潤ませて悟を見上げてきた。

ふらつきながら立ち上がり、恥じらいを滲ませるぎこちない動きで、恵が下着を脱いでいく。

「あ…………♡ つ、これ…………どうぞ…………♡」

「もつとカメラに寄りなよ、恵。べつとりついたお前のおツユがぜえんぶ見ちやうようにねえ♡」

「ふああああ……っ！♡」

裏返したパンティをあやとりでもするみたいに両手で掲げて、恵は気持ちよさそうに声を上げる。

一步、二歩、とカメラに歩み寄りクロツチを近づけると、スカートから覗く内股に、とろとろ澄んだ愛液が垂れていった。

「め、ぐ、めぐのおパンツ……♡ オツユついているとこっつ、どアップでご覧くださいいいいい……っ！♡」

「はは……」

『ほんとにぐっちよぐちよだ♡』

『めぐめぐのすけべ汁舐めたいなあ♡ 頼むからそのパンツ売ってくれ！♡』

『最高のオカズ有難う一発目射精したよめぐちゃん♡』

配信画面にはでかでかと恵の下着の内側が映り、染みきらずに表面に残った淫汁が、きらきらいやらしく輝いている。

『も、もう我慢出来ない……♡ めぐちゃん、おっぱい見せて、おっぱい……♡』

『彼氏にしてもらうんじゃなくて、自分で見せて♡ おパンツは口に銜えてさあ、自分で、シャツ外して、おっぱいぼろんして……♡』

「はははっ、すごいリクエスト来ちゃったね♡ 聞いてあげ

なよ、めぐ♡」

「……っは、あ、……おじさんの、えっちい……♡」

非難めいたことを口にする割に、恵はまんざらでもない表情をしていた。

そうつと濡れた下着を唇に銜える。きちんと愛液まみれのクロツチがカメラを向くように計算しているあたり、やはり見られたい気持ちがあるらしい。

それから、ゆっくり、ゆっくりと、上からシャツのボタンを外していく。

「ん……ん……っ♡ どお、ぞお……っ！♡ えいっ！♡」

恵はボタンを外しきらずに中途半端なところで止め、自分の手で左右にシャツを開く。そうすることでぼいんっ！♡と勢いよく爆乳を露出させることを選んだのだ。どうすれば自分が一番いやらしく見えるか分かってやっっているだけあって、着衣の途中から突然巨大な乳袋が突き出すみたいなのが、どうしようもないはしたなさを見事に演出してくれている。

『う、わあ……、半端に脱いでおっぱいだけ丸見えなのえっちい♡』

『ちゃんとリボンは残ってるのにシャツがはだけてるっいうのがかなりエグいなあ♡ やくらしく！♡』

『めぐちゃん♡ そのまんまのカッコでしばらくその場でジャンプしてよ♡ デカばいが元気いっぱい弾むとこお

じさん達に鑑賞させて♡』

「だってさ、めぐ♡ やんなよ」

「ん……むう♡ ひううう、うう……っ！♡」

ふるふる首を振るくせに、ほんの少しためらっただけで、結局恵は指示に従うのだった。

びよん、と小さく跳ねるだけで、ぼいんっ！♡と乳袋が大きく上下する。

「あっはは、ド迫力だねえ？♡ これ面白いな、もつといろんなポーズしてみてよ！♡ ほら、ほら、ほら！♡」

「ふむうううううう……っ！♡」

悟が手を叩いて笑い、新たに指示を連発するので恵はいちいち頬を染める羽目になった。

下ろしていた手をばんざいの姿勢にしてジャンプさせられ、ぼいん♡ぼいん♡と荒ぶる胸の揺れを余すことなく撮影される。

グラビアのセクシーポーズよろしく頭の後ろで手を組まされて飛ぶことを強要されたり、まるでこれが合意であるかのような、ダブルピースをさせられて飛ばされたり。

いずれにしろ愛液でぐちよぐちよの下着を口に銜え、すべて配信されていると理解した上でド派手な丸出し乳揺れ動画を撮らせる恵の痴態は、観客たちにはバカ受けだった。

『めぐちゃん！♡ めぐちゃんの恥ずかしいおっぱいぼいん

ぼいん動画永久保存するねえ♡ いっぱいオカズに使わせてもらうからねっ！♡』

『もつと揺らしてっ！♡ バストサイズと年齢絶叫しながらエア縄跳びしてっ！♡ それからうさちゃんのおてして飛ばずにぶるぶるおっぱい揺らし続けてええええええ……っ！♡』

「やれよ」

「んああああああ……っ！♡ やりますっ、やらせていただきますうううう……っ！♡ めぐはっ、おっぱい

二けた越えの100センチいい……っ！♡ Iカップ1才です

っ！♡ 1才のIカップ揺らして乳首モロ出してエア縄跳びしますっ！♡ みなさんがおチンコ握りしめてご鑑賞くだ

さってるその前でっ♡ 100センチおっぱいぼいんぼいん

んっ！♡ 上下にっ、ああああ……っ！♡ 揺れすぎて痛い

いいいいっ♡ ぼいんぼいんぼいんっ♡ ぼよんぼよんぼ

よんっ！♡ それからっ、うさちゃんのおてしてえ……

っ！♡ ぶるぶるぶるぶるっ！♡ 1才の爆乳ぶるぶ

るぶるぶるぶるんっ♡ 弾むIカップご覧くださいお客様あ

♡ うさめぐちゃんが恥ずかしいぴよんぴよんおっぱいお見

せしますぴよんぴよんぴよんっ♡ ぶるぶるぶるぶる……

……っ！♡ ぴよこぴよこぴよこぶるぶるぶる……

っ！♡ んあああもうこれえっ♡ しゅご、い、お股にクル

「ほら、これ。大事なやつ……♡ 見て欲しいんでしょ、パンツの裏側♡ どうせなら見えやすくしてやろっかあ」

「ふああ……っ♡」

「ね♡ これならめぐの乳首も、濡れ濡れおパンツの中身も両方よく見えるでしょ……♡ これね、名前おっぱんつって言うんだってさ。ウケる♡」

悟が手際よく、恵の爆乳に下着を通していく。本来足が出るはずの部分から淫肉が零れ、乳がパンティを穿いているかのような滑稽な絵図が出来上がった。ご丁寧に生地は裏返されたまま、ぬらぬら光る愛液が乗ったクロッチがカメラの方角に曝け出されている。

「ひい、ん……っ、~~~~~~~~……っ♡」

なんて格好をしているのかと自覚すればするほど、羞恥がひりひり頬を焼く。そうしてその熱に浮かされふらふらと恵の両手を持ち上がり、恥じらいで微妙に指を伸ばしきれない、無様なダブルピースを形作ってしまうのだった。

「んあああすっご……っ！♡ おっぱんつっ、おっぱんつだぶるびーしゅ、しちやったあ……っ！♡ んんいく……っ！♡ 熱いっ♡ 熱いですっ、アソコが……っ！♡ んっ、んう……っ！♡」

「うっは♡ ぐっしよぐしよ♡」

悟が思わず笑ってしまうのも無理はない。

触つてもいないのに恵の秘部からは愛液がしとどに溢れ、内股をすっかり濡らしていたのだった。透明な汁に混じり、本気で感じた証拠のやや白濁した淫液が、幾筋も浅ましい線を描く。その様子を眺めつつ、悟は恵を促した。

「ふふ……♡ ねえめぐ、ホントはもっど見て欲しいところ……♡ お披露目したいところ、あるんじゃない？♡ おっぱいよりも、パンツの裏よりも恥ずかしい、めぐの大事な、だあくいじな……っ♡」

「んんああああ……っ！♡ は、い……っ！♡」

まるで、悟に導かれるのを待っていたかのようにだった。

ふるると身震いした恵は熱い息を吐いて、言われもしないのに大きくガニ股開脚をする。スカートの裾をウエスト部分に突っ込んで固定し、露出した股間の、黒い茂みの奥の。大陰唇へ、親指以外の八本の指をかけ、ぐっばああああ……♡と割り開く。もちろん、カメラの方に向かって、だ。

「あ……っ！♡ あ、あ、あ……っ！♡」

「あゝあやっちゃった♡ 女の子の一番大切なところフルオープンじゃないかめぐう……♡ 濡れ過ぎて愛液が糸引きまくってるし♡ そこなあに？♡ ねえ、めぐがおっぴるげてるそこ、なんて呼ぶの？♡ お返事しなさい♡」

「……っ、は、……、ま、……♡ お、まん……♡」

「声ちっちゃくって聞こえない♡」

「……………つ、お、お……………つ！♡ おまん……………つ、こおおおおお
 おおおおおお……………つ！♡ めぐがばつかんしてる大切なこ
 こはつ、おま……………つ、ん、こ……………つ♡ おまんこつ、ですうう
 ううううううううううううううううううう……………つ！♡」
 「おー、どろろろろ♡つておツユ出ちゃったね今♡ えっち
 なこと言ったら気持ち良かったね♡」

頬を真っ赤にして、ぎゅつと目を閉じて恥ずかしそうに陰部
 の俗称を叫ぶくせに、それと同時に恵は、がば♡とより力強く
 女陰を開け広げ、観衆にそこを見せつけていた。衆目に曝され
 た膣口から蜜がいつぺんに零れ、観客たちはテキストながら、
 歓迎の賛辞を競って贈る。

「さあ見て見て♡つておねだりしてごらん、もつと気持ちい
 いぞお♡」

「ん……………あ……………つ♡ おつ、おまつ、おまんこ見てええ……………つ
 ♡」

「誰の、どんなおまんこ見て欲しいの？♡」

「あん……………つ！♡ めぐつ、めぐのお……………つ♡ ぐちよ濡れ
 の♡ おまんこですううう……………つ！♡ めぐのおまんこ見
 てえ……………つ！♡」

「そうだよね♡ デカばいおっぱんつJK1●才の露出狂フル
 オープンおまんまんだよね♡ そうだ、即興でお歌歌いなが
 ら見せ見せしてみなよ♡ 恥ずかしくつて気イ狂うぐらい気

持ちいよ♡」

「んおああああああああ……………ツ！♡」

別に拘束されているのでもなければ脅されているのでもな
 いのに。それでも恵は肉欲に抗えず、悟の提案に乗ってしまう
 のだった。

「デ……………つ♡ デカばいつ、おっぱんつJKのめぐめぐですう
 ううおまんこ見てええええええええ……………つ♡ 露出狂
 のつ、ドすけばまんまんつ♡ 1●才のいけないところつ、
 モザイクなしでお見せいたしますうううううううううう
 うううつ♡ めぐまんこご覧くださいませええみなさま
 つ！♡♡ くばつくばつくばつ♡ ぱかっぱかっぱかあ
 つ♡♡ ぱつかあああああ……………♡ おツユだら
 ♡♡ おクチ閉じてみもみもみくちゅくちゅ♡ おツユだら
 けのまんスジ見せ見せしてつ、自分でお毛々掻き分けてつ、よ
 おく見えるように準備してからのおおおお……………つ♡♡
 おまんこつ、くつぱあああああ……………つ♡ おっぱんつでくつ
 ー……………♡ ガニ股でくつぱああ
 ぱああああ……………♡
 あああああ……………♡
 1●才のおめこちゃんつ♡ くばくばくばくばつ、カメラの前で連続
 オープンれひゅくぱくぱくつぱああああああああ
 ああああ……………♡

『めぐちゃんのまんまん♡ まんまん♡』

『露出狂JKのおめこ穴舐めたいよっ♡』

『まくん♡ おまんちょ♡ 1●オのまんまん最高っ♡』

画面を女性器の俗称が埋め尽くし、大量の淫らな言葉が恵に投げかけられる。

恵は唇を噛んでいるが、その膣口は馬鹿正直にこぼこぼ愛液を垂れ流していた。

「ああああああああ……っ！♡ あああああああっ！♡ 彼氏に超至近距離でまんこ撮影させてアへってるめぐのイカレっぶり……っ！♡ みんなでっ、みんなで愉しんでおちんちんシコシコしてねええええええええええええええええ……っ！♡ めぐのビアップおまんこポスター♡ めぐがエッチなこと叫びまくってイキまくるおまんこくばくば無限ループ動画ああああああああああああ……っ！♡ 作ってえ！♡ 好きにしてえっ！♡ めぐのこと性的

に消費して欲しいのおおおとおおおとおおおっ！♡ めぐのおっぴろげおまんまんケータイやパソコンの壁紙にして使ってえ♡ めぐのっ、勃起クリちゃんんんんんん……っ！♡ オナリすぎてちよっと色素沈着してるビラビラ♡ それからっ、いっぱい見てもらっつて涎垂らしまくってるだらしなあい穴……っ♡ めぐのっ、おまんこ穴……っ♡ おちんちんぼ入れたりオス様にご鑑賞いただくためのっ、オ・ナ・ホ・穴

ああああああああああああああ……っ！♡ 全部っ、形っ、覚えてえ♡ おまんこ見ただけで『あっこれめぐのまんこだ♡』って分かるようになってっ！♡ いっぱい見せ見せしゅりゅかりやああっ！♡ どおぞどおぞっつてカメラに向かっつて……っ！♡ びよーん♡っつておっぴろげりゅうううっ！♡ はいくっばあっ！♡ ぱっかんっ♡ ぱかーっ♡ 1●オのラブラブジュース出まくりすけ穴だよおみんな見てえろっ♡ 1●オなのに……っ、もうね、千人のひとに……っ♡ 見られちゃってるのお♡ 大事なアソコ、自分でばかあく♡っつて見せちゃうバカ女だっつ♡ エッチなでか乳メスマンこなんだっつ、これでもう……っ！♡ バレたっ！♡ 完全にバレちゃったああっ！♡ 気持ちいいっ！♡ エロバレすんのしゅごいしゅごいしゅっごいきほちくっつて……っ！♡ オナニーしちゃうよおこりこりこりこりこりこりこりこりこりっ！♡ クリトリスなでなでなでなでなでっ♡ カメラの前でっ、Iカップおっぱいもみもみしてえ……っ！♡ おまんこもっ、くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅううううううううううううううううう……っ！♡ オナニー見っつ！♡ めぐのガニ股オナニー見っつ！♡ 彼氏の前でよそのおじさまたちにおまんこ見せてオナニーするおバカなめぐのことっ、もっといっぱい見て見てっ！♡ 彼氏のカメラで千人にどアップおまんこ生配信して接写まん

「いた……どりい……っ♡」

性感に浸かった脳みそでは、名を呼ぶだけで、いともたやすく妄想の扉が開く。

彼氏である悟が見ている前で、恵は、別の男と自身との淫らな情景を思い描いていた。

『虎杖……っ♡ 見てえ、俺の、ココお……っ♡』

窓の外は夕暮れ、見慣れた高専の教室。学びに使われるはずの机に座って、JK姿の恵はシャツを開け裸の胸を露出させ、大きく股を開いている。

本来そこを覆っているべきパンティは恵の乳房に裏返しで収まってしまっている、濡れた女性器は丸見えだ。ただでさえそうなのに両手で左右にくっぱりと開いているものだから、膣口の中身までもが悠仁へと見せつけられていた。

『だ……、だめだって伏黒っ、んなことしたらさ……！ むっ、胸しまつてくれ！ あとそれ、女の子の大事なことなんだから。そんな簡単に見せちゃだめだって』

『でもお……っ♡ ん……っ、見てもらったら、気持ちいいのおおお……っ♡』

椅子に腰かけ、恵から少し距離をとって座っている悠仁は顔を赤らめ、困ったように頬を指で搔いている。

そうこうする間にも恵の陰部は蜜を溢れさせ、机の表面を淫らに濡らしていった。

『お……、ねが、もつと見てえ……♡ めぐの……♡ めぐのっ、おんなのこのところ……っ♡ くくくおまんこお……っ♡ めぐのまんこ、もつと近くでえ……っ♡ ゆーじっ♡ めぐのまんこもつと見てえっ♡ ゆーじっ、ゆーじい……っ♡！』

『伏黒おっ、お前さあ……っ♡！』

恵の細い指が片手で陰裂を割り開き、残った手でそこを指差して、どうぞどうぞ♡と誘っている。

甘ったるい声が悠仁の下の名を呼んだのは、まったくの偶然というわけでもなかった。

妄想世界の外の現実で、視聴者たちのコメントがそう呼ぶように誘導していたのだ。『その方が彼氏裏切ってる感があつてキモチイイよ♡』という甘美な誘惑に発情した雌が逆らえるはずもなく、妄想世界でははつきりと、現実世界では小さく小さく小さく、恵は彼の名前を口にしたり。

チ、という悟の舌打ちが聞こえ、なおのこと恵の被虐心を煽る。恵は切なげに息を吐いて、また妄想に没頭していった。

『ほらあ、ね……っ♡ ゆー、じ♡ ゆう、じ♡って、おまんこでお喋りしてあげるう……っ♡ ぱ、かつ♡ ぱかあ♡
♡ お前の名前呼ぶだけでほら、エッチなお汁が、こんなにくれ……っ♡ 感じてるんだよ♡ なあ、もつとっ、感じさせてくれ……っ♡ こつち来て……♡ こつち来て近くで見てくださいだけでいいからっ♡ ゆーじ、ゆーじ、こつち来てえ……っ♡』

『~~~~~しよーがねえなあ……っ！♡』
ぱかぱかぱか陰部を開き名前を呼んで懇願する恵に根負けし、悠仁は席を立て、床に直接膝をついた。
うまく角度を調節すれば、充血した恵の媚肉がちようど悠仁の目の前だ。

『あん……っ！♡ うれ、しい……っ♡ また濡れちやう……♡ ゆーじい♡ ね、匂いかいで♡ めぐのおツウの匂いかいでよおとお……っ♡』
『近くで見ただけって言ってただろ!?♡ ~~~~~たくう……っ！♡』

もともとお人好しで押しに弱いタイプなだけに、悠仁は恵の要望に応え、その匂いを嗅ぎ始める。

『あ、あ、すご……っ♡ ゆーじが♡ めぐのまんこお、かいで……っ！♡ ひくひくふんふんってぐしよ濡れまんこにすっごい寄って、おツウの匂い♡ かいでくれているよおとおお……っ！♡ ね、どんな匂い？♡ どんな匂いさんの……っ♡』

『ど、どうって……♡ なんかすげ、やらしー匂いがするよ……♡』

『~~~~~はあ、はあ♡ 興奮すりゆうううううううう……っ！♡ ゆーじ、に、おまんこがれて……！♡ そんな感想なんか言われちゃったらひやっばいよお……っ！♡ はかどるっ、オナニーすごいはかどつちやう！♡ クチュクチュクチュクチュクユ♡ってほらああああああつ！♡ も、我慢、できなあ……っ♡ ゆーじいっ！♡ めぐのおまんこ舐めてえっ！♡ ぐつちよぐちよのめぐまんこ舐めてっ、エッチなお汁がゆるるう~~~~♡って吸ってよおっ！♡ おまんこの穴ちゅちゅしてえっ！♡ まんこちゅちゅっ！♡ ちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅ……っ！♡』

『ば……っ！♡ だめだる伏黒っ、だってお前、五条先生と付き合ってるんだろ！♡ そういうのはだめだつて、ちよつと見るとか匂い嗅ぐだけならまだしもさ……っ！♡』

『だってえ♡ だつて気持ちいいんだもん♡ ゆーじに見てもらつてくんくんしてもらつてるつて思つたらほらあ♡ 本気汁、があ……っ！♡ ねとねと♡ねちよ♡つて♡ 大洪水になつちやうよおお、ゆーじいいいい……っ♡』
『うわあ……♡』

うっかりすると悠仁の唇がくっついてしまいそんな近距離で、恵が淫らに性器をいじる。『まんこ舐めて♡』『ねえ、めぐのおまんこ舐めてえ♡』と刺激的な言い回しでねだられても、悠仁は顔を真っ赤にしたまま首を横に振るばかりだった。
なにもかもがすべて妄想だ。

悠仁はきつとこんなことしないでろうし、悟と恵が付き合っていることだつて知らないはずだし、もとより恵は女ではない。けれど、どこか生々しい現実感を持った偽りの世界で、恵が尋常でない快感を得ている事実だけは確かだった。

『んん♡ じゃあ、じゃあ……！♡ 触らなくて、いいから……♡ 触らなくていいからさつ、めぐのおまんこ……♡ スマホで動画撮影、して、くれ、る……？♡ めぐがぐじょぐ

じよまんまんおつぴろげーしてゆーじ♡ゆーじいい♡つて叫びながらオナつてるそこお……♡ ゆーじのケータイで撮つて♡ ぜんぶ、記録、してくれらう……っ？♡』

『へ!♡♡ そ、そんなことされたのか!♡♡』
『……さりたい……っ!♡ ゆーじに、オナニーめぐまんこ撮らりたい……っ♡♡ そんなでっ、これ五条先生に見せちゃおつかな?♡とか、この動画ネットに流したらめぐの人生終わりだね♡つてヒドいこと言つてみて欲しいのおおお……っ♡』

『……な!♡♡ お、おおおお俺っ、他人の動画をそんなことしねえよ!♡♡』

『分かつてるうっ!♡♡ ぐぐ分かつてる、からあ♡♡ 意地悪っ、ゆわれないだけえ……っ♡♡ 興奮するのっ、そういうの、すぐくううう……っ!♡♡』

『はあ……、そ、そういうもん、なのかあ?♡♡ わ、分かつたよ、やつてみるけどさあ……?♡♡』

『嬉しい♡♡ ありがとお、ゆーじい……っ!♡♡』

悠仁が制服のポケットから携帯電話を取り出す間さえ、恵はもどかしげに息を弾ませている。ポン、と撮影開始の電子音が鳴つたスマホを悠仁が片手で掲げると、恵はM字に開いていた足を唐突に閉じた。

なんだよ感想は♡ ええっ？♡ ド変態教室オナニー見て
もらって嬉しいんだろ……っ？♡ なあ、そっだよなあっ！
♡』

『はひいひい……っ！♡ みんなで授業受けるための教室で
……♡ 机の上でっ、おっぱいもおまんこも丸出しのV字開
脚オナニー撮影会してもらおうの控えめに言ってもさいこおれ
しゅうううううううううう……っ！♡ いいやつゆー
じが口悪くなっちゃうくらいはしたくない真似しちゃうのっ♡
だっつ、だっつ、きぼちいいからあああああああああああ
……っ！♡ ねえめぐのおまんこもつと見てっ！♡ オナ
ニーおまんこいっばい撮って笑ってえええええええ……
っ！♡』

『へーんたい……♡ 変態♡ お前さ、こんな動画に撮ら
れてこれネットに流されちゃったらどうなのか分かって
んの……？♡ 全世界の人間がお前のまんこ見てオカズにし
ちゃうんだぞ……？♡ 拡散されまくってさ、道歩いてるだ
けで、あつあいつあのエロ動画のオナニーまんこ女じゃん！
♡ っつてすぐバレて、知らない男の集団に路地裏とかに連れ込
まれて全方位囲まれた上で無料オナニーショーを撮影されち
やうかもしれないんだぜ♡ めぐちゃんはこういうのが好き
なんだよなあ？♡ っつてヤジられながらすんげえ数のカメラに
お前の濡れ濡れまんこ撮られちゃったらもうそれ完全に合意

っつてことにされちまうぞ♡ だっつてまんこ濡れるって感じて
るってことなんだもんな！♡ つはは、どう？♡ 想像して
るか？♡ 何十人もの男にひどい目に遭わされちまう自分の
こと……っ！♡』

『ああああああ……っ！♡ ひいん、ひい……っ！♡』
言われなくてももちろん恵はそんな己の姿を想像していて、
その証拠にクリトリスを擦る指の動きは、グヂュグヂュグヂュ
グヂュとみつもないうらいに激しくなっている。

薄暗い路地裏。年齢も服装もばらばらな、何十人もの男たち
の下種な笑い声。こちらへと無慈悲に向けられるスマートフォ
ンのレンズの、淡々とした視線。そうして制服を半端に脱がさ
れ、けれど乳房や性器など、本来隠されているべき部分だけを
露出させられ自慰を強いられている自分。

『伏黒恵、1才です！♡ 呪術高専一年生です！♡ おっぱ
いは100センチ越えのIカップですっ！♡ ネットに、男友達
に教室で撮ってもらった無修正オナニーまんこ動画がありま
すのでみなさんご覧になってちんちんしごいてください……
っ！♡ ♯バカまんこで検索していただいで一番上の動画で
すうっ♡ まだ1才なのにオナニーまんこ動画で超有名にな
っちゃってごめんなさいっ！♡ お詫びに今からまたオナニ
ーして動画撮ってもらいますっ！♡ 知らないひとたちに暗
いとこに連れ込まれてっ、カメラに囲まれてパンツ脱がされて

裏返して頭にかぶらされた格好でっ、自分でおまんこクチュクチュします……っ！♡ 自己紹介してるだけでまんまん発情してもうダメっ、秒でイクぅ……っ！♡ 即堕ち1●才路上オナニー動画撮られちゃいますっ！♡ 黒歴史作っちゃうのほんとにダメっ！♡ ソクソクしてっ、おツユが溢れてっ、まんこ開いちゃって奥まで見せちゃってそれで……っ！♡

妄想のなかで妄想を重ね、恵は繰り返し膣を指でほじくる。そんな恵を悠仁は、さらに煽りだしていた。

『上手に想像できたな伏黒♡ んでその動画さあ、お前の彼人も当然見ちゃうかもしれないんだぞ♡ 五条先生……、二人のときは悟さん、って呼んでるんだっけか？♡ 悟さんがそんなお前のバカ女っぷり見ちゃったらどう思うかなあ？♡ お前が路上で集団オナニー撮影会愉しんじやうような変態まんこだっけ知ったら悟さんどう思うかなあ？♡ ねえねえねえ♡』

『~~~~~ッ！♡』
意地悪い口調で揶揄されてしまえば、罪悪感でさらに下腹が熱くなる。快楽に浮かされて、決定的な言葉さえ口にしてしまふ。淫らな嗜癖を持っていたとしてもそれでも守っていた境界線、ついにそこさえ、恵は越えようとしてしまっていた。

『も、ダメえ、イク、イクっ、イクぅぅぅぅぅ……っ！♡』

気持ちよすぎちゃってダメなのおっ！♡ ね、ゆーじっ、もう挿れてっ♡ 今すぐココゆーじに犯して欲しいっ！♡ めぐのまんこもうほんとに限界だからゆーじのおちゃんぽでぶすっ♡ っつとどめ刺してええええええええええ……っ！♡ もう我慢できないっ！ 我慢なんてできないのおおおおお……っ！♡』

『え……っ！?♡ え、と……！♡ や、それは、ちよつと……!?!♡』

戸惑った悠仁が、ぱつと恵から距離をとる。

そこまでするつもりはなかったのだ。

あくまで恵に触れずに、恵が望むように、恵の自己完結に近い形で終わらせるつもりなのだった。

恵は悠仁に縋るように、『せつくす♡ しょ、ゆーじ♡ おまんこハメて♡ めぐの中にびゅっびゅしてえええ……♡』と懇願している。

そのとき、ガララ、と異音が響いて、教室の扉が豪快に開かれた。

『——なら、俺が犯してやろうか？』

『な……っ！?♡』

『え……♡』

そこに立っていたのは、両面宿儺だった。悠仁の肉体をベースにはしているものの、衣服や、身にまとう気配はまるで違う。

なぜ彼が悠仁と別で存在しているのか、現実であればそれは非常に重大な事態だろう。

ただもとより妄想の世界であれば、なんでもあり、のひとことで片が付いてしまうのだった。

乱れた姿の恵と、彼女から距離をとりながらもしつかりと雄を立たせている悠仁を一瞥し、宿儺はフンと鼻で笑った。

着物をめくり、下着を解いて、一物を露出させる。

数回手でしごいてみせれば、悠々とそそり立つ巨根が、恵の瞳を一瞬で捉えた。

『わ………！♡ お、つき………♡』

思わずそう零して恵は悠仁の方を、というより悠仁の股間を見る。宿儺のペニスがああならば、悠仁とて同じものを持つているはずだという推測からの行動だった。

さらにその読みは別に外れてもいないので、悠仁は頬を赤くする。

『あの……、勃つ前はあんなでもないんだよ！♡ 確かにち

よつとデカめかもしれないけど………！！♡』

『ちんこでかいんだ、ゅーじ………♡』

『いやあのその、えーと………！！♡』

『どうした、伏黒恵？これが欲しいんじゃないのか』

酷薄そうな声色で、恵と悠仁とのやりとりが断ち切られる。『欲し、い………っ！♡』

手でぶらぶらと極太の男根を揺らす宿儺の足元に、恵はすぐさま駆け寄った。内股で座り込み、上目遣いで雄へと媚びてみせる。

『土下座しろ。それが物乞いの、浅ましい雌の礼儀だろう？』

『ああ………♡ は、はい………♡』

『ねだれ。心の底から、この俺の魔羅が欲しいですと言え』

『………っ！♡ お、おちんぼ………っ！♡ おちんぼが、欲しいです………っ！♡』

『愚図め！声が小さくて聞こえんなあ!?!』

『！♡ ……♡ うあ………っ！♡』

宿儺が、床に額をつけた恵の後頭部をぐりりと踏む。単に足を乗せるだけでなく、ぐりぐりぐりと踏みにじってみせる。

しかし恵は反発するどころか、土下座の背を淫らにしならせ尻を突き出し、手をそつと股へと滑らせて自慰を始めたのだつた。

『グズで申し訳、ありませんん………っ！♡ おつ、おちんぼをッ！♡ おちんぼを恵んでいただきたい、です………っ！♡』

『こうして足蹴にされてもっ、それでも………っ！♡ おっきな凶悪おちんぼをおまんこにブツ込んで欲しいんですう』

っ！♡ 浅ましいメスでございますッ！♡ 頭ぐりぐり踏まれて感じてしまう浅ましいメスにお慈悲をっ、お慈悲のおちんぽをおおおおおおおお……っ！♡』

『ほうほう、ほう？♡』

宿儺はわざとむつたいぶつて恵の頭を踏み続け、眼下の痴態を愉しんだ。くちゅくちゅぐちゅぐちゅという陰部をいじる水音とともに、『んッ♡』『はうん……っ♡』と、小さく恵が喘いでいる。

『まあいいか。よし、しゃぶれ下賤。許してやる』

『あつ、ありがどうございますう……っ！♡ 宿儺、様ああああああああ……っ！♡』

ほんのわずかな時間に、完璧な上下関係が出来上がってしまった。頭を解放された恵はがばりと起き上がり、宿儺の男性器へと顔を寄せる。

戯れに、指で反動をつけた勃起ペニスでべちんっ！♡と思いきり額を打たれたのだが、それでも恵は嬉しそうに、瞳を昏く輝かせて微笑んでいた。

『はあつ、あん♡ 宿儺様ああ……っ♡ おっきい♡ おちんぽおっきいです♡ おクチに入りきりませんっ！♡ 舐めてるだけでえ……っ！♡ まんこ濡れるうっ♡ びしょびしょになっちゃうっ♡ デカちんぽは大正義ですっ♡

んむうっ♡ はふっ♡ 宿儺様のっ、おちんぽ様しゅごいですうう……っ♡』

『ははははは、ははッ！』

呵々と笑う宿儺の肉棒へ、恵は熱心に奉仕をする。

根元から先端へと丁寧な舌でなぞり、亀頭を啜えて喉でしごき、ときおり陰茎でべちっ！♡べちっ！♡と顔面を叩かれたり、こりこりとその張った幹を顔に擦りつけられても、悦んで口淫を施した。玉袋さえ隅々まで舐め、しゃぶり、寧丸を片方ずつ口に含んでは、舌で優しくころころ転がして絶妙な力加減で吸いついてみせる。

『なかなか上手いな。仕込んだ奴の顔が見たいものだ』

『お褒めにあずかり、光荣、ですう……っ♡ んっ、ん♡』
宿儺は恵の前髪を掴み、乱暴に持ち上げてふしたらな女を引きはがす。救いようなないことにそんな扱いを受けても、むしろそんな扱いを受けているからこそ、恵の表情はとろとろと酔ったようになっていた。

『お前ほどの下劣な女であれば、こういったことも出来るのか？』

『……っ！♡』

宿儺がゆっくりと片足を上げ、床に座り込んだ恵に草履の裏面を見せつける。

それだけでなにを求められているのか分かってしまうのも、

大きくガニ股に開いた女性器から派手に潮を噴く。

『ふ、伏黒……っ♡』

目の前で繰り返される淫らな遊びに置いていかれ、悠仁は
間抜けに突っ立っている。

『あんっ！♡ あんっ！♡ あんっ！♡ 宿雛様あつ！♡

『あんっ！♡ アイですうおつきなおちんぽぶっ刺さってるう
う……』

『ははは！♡ ははははは！♡』

終いには、呪力を使った悪趣味なセックスまで見せつけられ
る羽目になってしまった。

仰向けになった蛙のような状態で宙に浮かんだ恵は、常人の
目には見えない力によって、無防備な膣穴を宿雛の男根へと何
度も何度も叩きつけられている。

『いぎいっ♡ おぼおっ♡ お……っ！♡ ほごおおっ！
♡』

『いい締めつけどぞ伏黒恵イ……♡ 現世でのオナホ、とい
うやつ向きなのだろうなお前のこころは♡ さあ尽くせ！♡
もつと、もつとだ！♡』

仁王立ちで腕を組むといういかにも不遜な態度の宿雛に、恵
は幾度も幾度も、深くまで腹を穿たれる。そのくせ彼女の両手
は安っぽいダブルピースでいつまでも媚び続けるものだから、
外野からすれば膝から崩れ落ちそうなほどいやらしい光景

だった。悠仁は目を見開き、静かにごくりと喉を鳴らしている。

『く……、出すぞ、飲め……！♡ 飲み干せ……っ！♡』

『んあああああああああつ、お精子来てりゅううううううう
ううううううううう……』

不自然なピストンを繰り返していた恵の身体は奥まで肉棒
を飲み込んだまま静止し、今度は下半身をグラインドさせて子
種を搾り取るための動きへと移行させられていた。

くっ♡、くっ♡、と卑猥に腰を突き上げた呪いの王は、堂々
とした立ち姿で恵の奉仕を受けたまま、濡れそぼった蜜壺へと
淫欲の証を叩き込んでいく。

『ふ……♡ なかなかにいい穴だったぞ♡ 褒めてやろう
……♡』

『あ……、あ……♡ こ、光栄でしゅう、宿雛しやまに手籠め
にされて……っ♡ 宿雛しやまのっ、女にされちゃってええ
えええええ……っ！♡ あんなっ♡ モノみたいにつ、犯
していただいてえええええ……っ！♡』

『ふしぐ、ろ……♡♡』
極太の雄を引き抜かれると、恵のヴァギナからはごぼり……
♡と大量の白濁が溢れ出る。

呪力によって恵を獣の体勢にさせると、宿雛はちらりと悠仁
の方へと視線をやった。

愉快そうに笑う宿儺がぐりぐりと下腹を押しつけ恵に射精するのを、悠仁は一步も動けず見守っていた。彼女を助けようと外道に立ち向かうでもなく、かといってこの場から目を逸らして逃げるでもなく。

つまりは、そういうことなのだ。

『ほおくれ、お前がどれほど俺のモノにされたのか、小僧にとくと見せてやるがいい♡ だらしな穴だ、飼い主様からの賜りものをそんなに溢れさせて……♡』

『あああ……♡♡』

『うお……♡♡』

言うなり宿儺は、恵をまんぐり返しの姿勢にさせ、悠仁に向けて大きく股を開かせる。そうして懐に手をやると、そこから例の、悠仁が喰らったあの指を何本か取り出した。

鋭い爪こそ丸められていたが、禍々しさは微塵も失っていないその指を、宿儺は恵の膣に突っ込む。悠仁は目の前で、戦友の女性器が特級呪物に犯されるさまを見せつけられてしまっていた。

『あああ、ん……♡♡ おまんこお……♡♡ おまんこがっ、ひいいん……♡♡ にやに、これっ、まさか……♡♡！』

♡ ああっ、指、指らあああ……♡♡』

『うん？♡ おまんこがどうした、もつと見て欲しいのか？』

♡ ……クク、恥知らずな雌犬め♡ これでどうだ？♡』

『あひああああああ……♡♡』

『わ……♡♡』

宿儺が目を眇めるなり、死蝟であるはずの醜い指が突然動き出し、左右に二本ずつ、計四本で、恵の大陰唇と膣穴とをぐっばああああああああ……♡♡とはつくり開け広げる。動揺する悠仁の瞳に、中出しされた精液と、新たに湧き上がった透明な愛液とを溢れさせる淫らな部位が曝されていた。

『さてこちらの具合はどうかア……♡♡』

『ひ、ん♡♡ ほおあん♡♡ おひりいいい……♡♡』

また別の指を懐から取り出し、それを使って宿儺は恵のアナルをほじる。潤いを足すためぶちぶちゅと膣に突っ込んでから、繰り返す排泄口を、女性器へと変えていく。

『喜べよ、女♡ 前も後ろもこの俺の性玩具とされることを♡』

♡ はて名はなんといったかなあ♡ 雌犬、と呼ぶのがびつたりすぎて忘れてしまった♡ まあ問題あるまいな♡』

『あ♡♡ ア♡♡ あう！♡♡ あん♡♡♡♡ そ、しよんなああ……♡♡』

わざとらしくとぼけられても、恵はひっくり返った無様な格好で雌汁を垂らし続けるだけだった。すっかりほぐれた尻の穴を犯し抜いてやるぞとそそのかさされ、淫らな雌はいやらしく雄を誘うよう強要される。

『ひあ、あ、ああああああ……♡♡♡♡ めぐ、恵のっ、

お尻おまんこおおおおお……っ！♡ お願
いします使ってくださいっ！♡ 宿雛様のおつきなおちんぼ
で♡ 恵のお尻まんまんダメにしてやってください♡ も
う名前なんてどうでも……っ♡ メス犬でも、まんこでもい
いですっ！♡ むしろまんこって呼んでください♡ 犯し
て♡ メス犬のおケツおまんちよ宿雛様のでかちんぼしやま
でハメ倒して脱肛させてえんっ♡ 中身出ちやうまでっ♡
王様おちんぼでめっちやくちやにハメハメしてっ！♡ ケツ
まんバコつてえっ！♡ おパコりくだしやいまへ宿雛様あつ
♡ めぐのケツメドっ♡ 特級呪物にほじほじされて感じ
まくっちやった呪術師失格のどマゾケツ穴奥までずっぼし犯
して欲しいですっ！♡ 犯してくださいお願いいたします
っ！♡ 呪いおちんぼハメていただきたくすうっ！♡
メス犬のお尻の穴をザーメンコキ捨てオナホとしてどうぞお
使くださいませっ！♡ 恵を犯してくださいませえっ！
♡ ケツまんこ捧げますっ！♡ いやらしい爆乳メス犬の
はしたない穴へハメハメっ♡ ハメハ……んぎいいいいい
いいいいいいいいいいいい……っ！♡』

『馬鹿が♡』

ぬぼぼっ♡と尻穴から異物が抜けていったあとでぐちよん
っ！♡と一息にそこを貫かれれば、恵の目がいつぱんに焦点

を失う。立て続けにピストンをされると、瞳に入り込んでいた
宿雛の指がぼんっ！♡つぼんっ！♡と飛び出して恵の腹に
何本も落ちた。

愛液まみれの特級呪物は恵の顔の方へ這い、無理やりに口の
中へと入っていつては間抜けに唇を開かせる。

『あつ、アナルうううううううううううううううう……
っ！♡ アニヤルに太いのはだめえっ、これモロ感じちやっ
てすぐにアクメしひやうっ！♡ アクメしちやいます宿雛様
ああああああああああああああつ！♡ アナルにでかちん
ぼだいすきしゅぎて即落ちしまひゅ宿雛ちやまつ♡ 申し訳
ありまへんっ！♡ あっイぐ！♡ ほんとにイっひやうう
ううううう……っ！♡』

『弱い弱い、弱いなア♡ しょせん女はこんなものか♡ い
いぞ、イくがいい♡ ただし、みつともなく喘いで恥を曝しな
がら絶頂しろ！♡ 小僧にも聞こえるような大声でな……
っ！♡』

『びいい……っ！♡』

ごん！♡ごん！♡ごん！♡ごん！♡ごん！♡ごん！♡と、折檻
のなか性交なのだから分らない勢いで雄を叩き込まれる。恵
の下腹は楔の形をくつきりと浮かび上がらせ、貪られるものの
無力を見た目からも悠仁に伝えていた。頬を紅潮させ、今にも
気絶しそうな表情で、雌犬は哀れつぽく叫ぶ。

されてりゆつ、おんなのこのいつちばん大事なところにい……
 つ！♡ 大事な大事なおまんこをつ、おちつこシヤワーで便
 器に魔改造されひやつへるううううつ♡ 呪いの王様の極
 太おちんちんから大量発射されるおしよんしよんで恵のおま
 んこメス便器デビュウつ♡ ゆーじがっ♡ 見てる前で
 つ♡ 命がけて救いたいくらいの大切な存在の目の前でっ
 ♡ めぐまんこ便所にされひやつへりゆうううううつ！♡
 こんな罪深すぎておまんこの涎垂れまくりになつちやうよ
 おつ！♡ しーしー♡ しーしーされてりゆとこじーって
 見てゆーじい♡ めぐのおまんまん宿讎しやまにおちつこち
 ーされてりゆのおおおおおおおおおお……つ♡ じ
 よばじよば♡ じよばあ♡ お便器い♡ 便器まんこにさ
 れんのきぼちいひよおおおお……つ！♡ 『
 『わっ！♡ 伏黒……っ！♡』
 恵は興奮でぐずぐずになった顔つきのまま、悠仁の腰に手を
 伸ばして抱き寄せた。そうしてすぐさま、彼の股間の布地にむ
 しゃぶりつく。
 『あああ♡ ゆーじいつ、おちんちん勃ってるじゃん……
 つ！♡ ゆーじのおつきなおちんぽビッキビキになつてんじ
 ゃん……っ！♡ これめぐのこと見てこんなになつちやつた
 んだよね!?♡ すごいすごいつ、嬉しい……っ！♡ ゆーじ
 のデカちんぽ♡ 服が湿ってるつ、これ我慢汁だよねえ……

っ！♡ ゆーじは俺のこと見てちんぽこおつきさせてかたあ
 くして先つぽからどろどろどろどろカウパー垂らしちやつた
 んだあ♡ お股のところがぐっしよりになるぐらいつ♡ あ
 のメスにハメてえくくくっ！♡ 思ってくれたんだよ
 ねえっ!?♡ こんなにおつきな TENT 張つちやつて可愛い
 ♡ ゆーじ♡ ゆーじ……っ！♡ ゆーじもやっぱり男
 の子だったねえ♡ 目の前でやられてる女みたらぼつきんき
 んになつちやうんだっ♡ いっくら人格者気取つたつて結
 局……っ！♡ つはあつ、ゆーじのおちんぽこの匂いすごい
 ドキドキしちやうよお♡ ゆーじの雄臭しゅごいつ、いけな
 いおクスリみたいだああああああ……っ！♡ 『
 『伏……、黒……おっ！♡』
 バランスの悪さに恵は再び四つん這いになっていて、もう誰
 も悠仁を拘束してはいない。けれど彼はその場から動くことも
 できず、されるがままになっていた。
 ぱつぱつに張つた学生服の股間部分を勃起ペニスの輪郭に
 沿って何往復も唇でしごかれ、ふんふんふんふん♡と鼻の穴
 が大きくなるほどの勢いで嗅がれ、鈴口のあたりを執拗に舌で
 ほじられ、吸いつかれてしまっている。
 男なら誰でも飛びつきたくなくなるような大きな胸をぶら下げ
 た少女が、膣を犯され、宿敵に放尿され、肉便器にされながら
 己の屹立を服越しに愛撫している。ついさつきまで友人だった

ろ♡って、たつくさんっ！♡ しーしーしー♡っていっ
 ばいほーによーしてもらったおちんぼにつ♡ ドスドスズコ
 ズコばちゅばちゅばちゅ♡っておまんこ何回もっ♡ どっ
 ちゅんどちゅん奥まで突かれてっ♡ そんであへえ♡っ
 てなってるメス顔をゆーじに♡ 大切にしたいひとにガン見
 されておまんこがっ♡ あっちゅい♡ あっちゅいよおゆ
 ーじい♡ いけない気持ちになっちゃう……っ！♡ いけ
 ないことっ、言っちゃいたくなる気持ちにいいいいいいい
 ……っ！♡ 『

『……………ひい……………っ！♡』

れるれるれるれるれるろ♡と男根の膨らみを舐
 めまわす恵の舌の動きが卑猥すぎて、悠仁はたじろぐ。けれど
 馬鹿正直に大きさを増した男性器に気付いて、恵は瞳のハート
 マークを、より一層濃くして輝かせた。

『……………もおだめ……………っ！♡
 セックスしよ、ゆーじいっ！♡ 友達にこんなこと言っちゃ
 いけないっ、彼氏もいるのにつ、でもだけど……………っ！♡ 今俺
 すっごくゆーじとセックスしたいいっ！♡ ゆーじのおちん
 ちんめぐのおまんまんに挿れようよおっ！♡ そんで二人で
 気持ち良くなるうっ！♡ なんなら宿雛様も三人ですっこん
 ばっこん挿れまくってめぐ便器愉しんでっ！♡ おクチもお
 まんこもお尻おまんこもぜんぶフリーオナホだからあっ！

♡ ゆーじのおちんちんっ！♡ めぐのおまんちよにちよ
 おだあいっ！♡ ゆーじのぶっといのっ、めぐのおんなのこ
 のところにぶっ刺してえ♡ ゆーじい♡ 犯してえ♡ お
 ちんぼこちようだい♡ 宿雛様みたいに情けゼロでプチ犯し
 てえ♡ 1●才の締め具合愉しんで中に出してえっ！♡
 どびゅっ♡どびゅ♡ってええええ、お、お、お、お、お、お
 おおとおおとおおおー……………♡

『こうか？♡ クク、見境のない不義理な雌だ……………♡』

どくん♡どくんっ♡と宿雛が精を注げば、恵は仰け反って
 歓喜を示す。

『さあ引き抜いてやろう……………♡ 栓の抜けた穴がどうなるか
 は説明なんぞする必要がないな？♡ 仲間の前で無様を曝す
 がいい♡ 膣から小便と精液を噴き出して……………♡ 敵にや
 られて臓物をぶちまけるよりよほどたちが悪いぞ？♡ なに
 せ……………ハハ、これだけの扱いを受けて絶頂するのだからからな
 ♡ なあ、伏黒恵っ！♡ 馬鹿穴の本懐を見せてみるっ！♡
 そら、いくぞ、いくぞ……………っ！♡』

『ふぎいいいいいっ、ひいいいいいい……………っ！♡』
 ずぬろろろ……………♡と、巨根が膣から抜かれていく。出口を
 求めて小便が一気に流れを変えるのを感じながら、恵は懸命に、
 悠仁を見上げて淫らに叫んだ。

(もつと、もつとお、ゆーじい……っ！♡)

唾えきれないくらい大きなこの凶器で、蜜壺を痛めつけて欲しい。自分勝手にたくさん擦って、突いて、こすって、抉って、未熟な胎のなかに、無責任に子種をばら撒いてくれたなら。

危険な発想に、きゅん♡きゅん♡きゅん♡と下腹が疼いた。こんな考えで感じてしまっているのだと自覚してしまえば、止める間もなく口が動いてしまう。

『ゆーじい、愛してるう……っ♡ 俺のナカに出してえめぐのまんこ♡ 不貞おまんこお、孕ませてえ……っ！♡』
『んぐうううううう……っ！♡』

ああ、言っちゃった。

これが不貞であることも、そのうえで種付けを望んでいることも、なにかも承知しているのだと明かすような言い回しに、ぶしやあつ！♡と潮が膣から噴き出す。艶めかしく腰をくねらせて、ぴつたりとひだを合わせた悠仁の唇へと、繰り返し、繰り返し。

ぶしッ！♡ぶしッ！♡びしやッ！♡ぶしやあッ！♡しよわッ！♡ぶちやッ！♡ぴしやあッ！♡と何度も潮を噴き

続ける恵を、両面宿儺が笑っている。声高らかに、げらげらげらげらとあざ笑っている。その響きがますます恵の身体を熱くさせ、そうして。

「——ンッ！♡」

長いような短いような、いやに鮮烈な妄想の導きによって、現実の恵も極まっていた。

悟が差し出した、動画撮影中のスマホに向かって潮が噴き出る。性器を開けているだけでいじっつてはいないのに勝手に自分で高まって、二度、三度、四度、と、大股開きの絶頂ショーが続いた。

『めぐちゃんすっごい！♡ 連続アクメの芸を仕込んでもらったんだね！♡ どんだけエロいの君ってば♡』

『えっちな潮吹きおまんこ、無限にループ再生して愉しみたいよお♡ すっごいエロいー！♡』

「……ちよつとめぐ、イキすぎ。なんなの、悠仁とどこまでするとこ想像したの」

「あう……！♡」

画面の向こうのギャラリーには伝わっていないのだが、特級

呪術師の本物の殺気をピンポイントに当てられた恵は怯え、床にへたりこんでいる。小さな声で「ごめんなさい、ごめんなさい」と謝罪をしたところで、依然悟は不機嫌そうだった。

まさか学校で、両面宿儺まで別で現れて、三人仲良く変態ブレイを愉しむところを妄想してしまっていました、なんて正直に言えるはずがない。涙ぐむ恵を見下ろして、チ、と悟が舌を打った。

「もろ～～～～許さないからね、僕に隠し事なんてさあ！お仕置きだよ、お仕置き！　そこ蹲ってカメラに向かってケツ穴曝しなよバカ女あ！」

「ひうつ！♡」

さらに機嫌を悪化させた悟に怒鳴られて、恵はびくつきながら床へ四つん這いになる。上体を伏せ、腰から下を高く持ち上げると、スカートの後ろ側がぺろん♡とめくられてまるやかな臀部が露わになった。

「ん……っ、これ、で、いいですか……っ？♡」

三三サンプルは以上です！　読んで頂いて有難うございました！

奥付

「爆乳 JK めぐたんが彼氏とエロ配信するだけの本」

【発行日】 2022年05月21日

【発行者】 みたいわ南国

【発行】 南国飯処（み）

【印刷】 株式会社ポプルス

【連絡先】 mitaiwanangoku@gmail.com

【pixiv】 <http://pixiv.me/mitaiwanangoku>

【twitter】 <http://twitter.com/MitaiwaNangoku>

【BOOTH】 <https://kakkomi.booth.pm/>

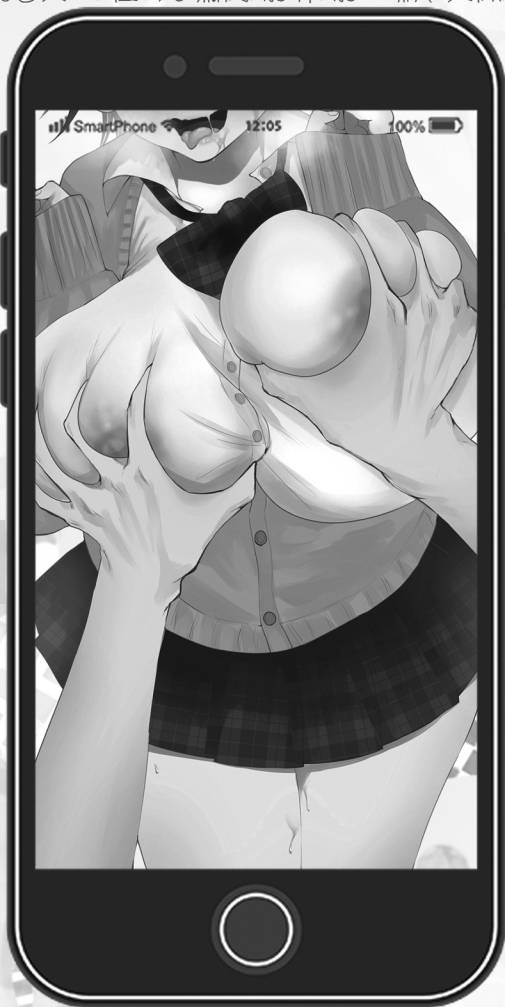
表紙イラストはふなださまにお願いをさせていただきました！

有難うございました！

◆ネットオークション、フリマアプリ等での転売はご遠慮ください◆

◆この本には以下の内容が含まれています◆

淫語/♡喘ぎ(男女とも)/羞恥プレイ/言葉責め/男尊女卑表現/体型への執拗な揶揄/キャラ崩壊/幼い恵に手マン/コスプレ(女子高生・エロメイド)/ハート目/コンビニで公開露出/乳首責め/性的な罵倒/豚鼻/豚の鳴き真似/豚呼び/おっぱんつ/くぱぁ/連続潮吹き/落書き/異物挿入(戻し笛・ゼリー・ろ影/膣で肛門を交互強要/お掃除フェラ/下ネタ替え歌/土下/靴を舐めさせる/公開疑似排泄強要/ろうそくプレイ/性ぶる/陰毛を燃やす/垂らす/電気あんま/ご主人様呼び/失禁



スパンキング/身体にペン・ポンプ・吹きろそく)/強制放屁撮りに挿入/中出し実況歌いながら裸踊り/座している頭を踏み攻めにアニリングラスへ放尿を強要器でアナルを火であ乳房や女性器に蠟を挿入した異物を蹴る/ぶっかけ

・不特定多数モ化恵 ※15ページ程度
エロ配信/セクハラダブルピース強要/ナニー強要/路地裏をかぶせる/アナル(全裸にランドセル水着・逆バニー)ダー・魔法のステッ/雌堕ち演技強要/鼻め/公開精液排泄/拡/聖水プレイ/野外大

ブ×爆乳女体一ジ程度
発言/下着見せつけ/歌いながらくぱぁ/オ連れ込み/頭に下着見せつけ/コスプレ・魔法少女・スクー/異物挿入(リコーキ・ペットボトル)フック/輪姦/二穴責声器で放屁音を流すスカ/

・悠仁&宿儺×爆乳女体化恵 ※25ページ程度
陰部見せつけ/性器を嗅がせる/オナニー撮影/バカ・アホ呼び/挿入乞い/ペニスでピンタ/フェラチオ/草履を舐めさせる/犬の糞を舐めさせる/犬プレイ/手拍子に合わせて踊る/呪力を使って手を使わずに犯す/中出し/孕ませプレイ/まんぐり返し/異物挿入(特級呪物の指)/便器プレイ/膣に放尿/愛してる発言/温泉浣腸/立位69/顔面に潮吹き・放尿/寝取りおわだり/

◆この本には以下の内容が含まれています◆

淫語/♡喘ぎ(男女とも)/羞恥プレイ/言葉責め/男尊女卑表現/体型への執拗な揶揄/キャラ崩壊/幼い恵に手マン/コスプレ(女子高生・エロメイド)/ハート目/コンビニで公開露出/乳首責め/性的な罵倒/豚鼻/豚の鳴き真似/豚呼び/おっぱんつ/くぱぁ/連続潮吹き/落書き/異物挿入(戻し笛・ゼリー・ろ影/膣と肛門を交互強要/お掃除フェラ/下ネタ替え歌/土下/靴を舐めさせる/公開疑似排泄強要/ろろそくプレイ/性ぶる/陰毛を燃やす/垂らす/電気あんま/ご主人様呼び/失禁

スマートフォン画面内:
SmartPhone 12:05 100%
An anime-style illustration of a girl with large breasts, wearing a white shirt and a dark skirt, holding her breasts with both hands. The image is framed as if it's on a smartphone screen.

◆不特定多数モ化恵 ※15ペ

エロ配信/セクハラ
ダブルピース強要/
ナニー強要/路地裏
をかぶせる/アナル
(全裸にランドセル
水着・逆パニー)
ダー・魔法のステッ
/雌堕ち演技強要/鼻
め/公開精液排泄/括
/聖水プレイ/野外大

◆ブ×爆乳女体 ージ程度

発言/下着見せつけ/
歌いながらくぱぁ/オ
連れ込み/頭に下着
見せつけ/コスプレ
・魔法少女・スカー
/異物挿入(リコー
キ・ペットボトル)
フック/輪姦/二穴責
声器で放屁音を流す
スカ/

◆悠仁&宿儺×爆乳女体化恵 ※25ページ程度

陰部見せつけ/性器を嗅がせる/オナニー撮影/バカ・アホ呼び/挿入乞い/ペニスで
ピンタ/フェラチオ/草履を舐めさせる/犬の糞を舐めさせる/犬プレイ/手拍子に合
わせて踊る/呪力を使って手を使わずに犯す/中出し/孕ませプレイ/まんぐり返し/
異物挿入(特級呪物の指)/便器プレイ/膣に放尿/愛してる発言/温泉浣腸/立位69/
顔面に潮吹き・放尿/寝取りおわだり/